

H&P Architects.,jsc (HPA) 訪問調査記録

[訪問日時]

2019年8月1日(木) 9:40 – 11:45

[場所]

H&P Architect 本部(Building B8-TT18, Van Quan Urban Zone, Ha Dong Dist., Hanoi)

[先方]

Doan Thanh Ha (Founder & Chairman)、Hoang Trung Hieu (staff)

[当方]

ジェンキンソン陽、志賀隆雄、神野芳紀、田中直、橋本裕光、堀尾孝子

[内容]

○団体の概要

2009年に、顧客の(建築物、建造物にかかわる)ニーズに、プロフェッショナルな解を与えることをめざして、建築家グループ、エンジニア、プランナー、プロジェクトマネージャーが集って設立され、現在10名のフルタイムワーカーが働いている。

○活動

これまでに15の建築物が完成している。これをマズローの欲求5段階説(図1)に沿って分類していくと下のようになる。特に貧困層のニーズとして、I、II、IIIを重視している。

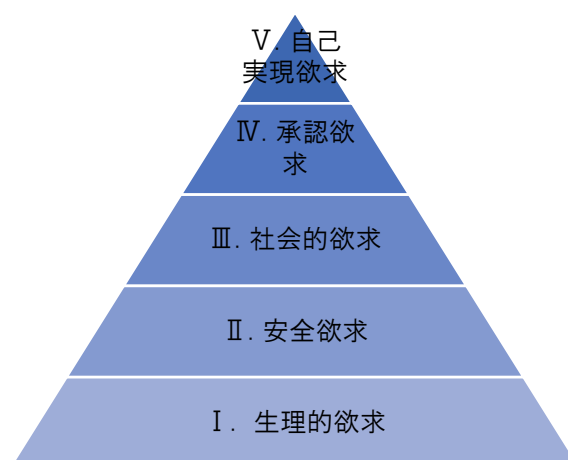
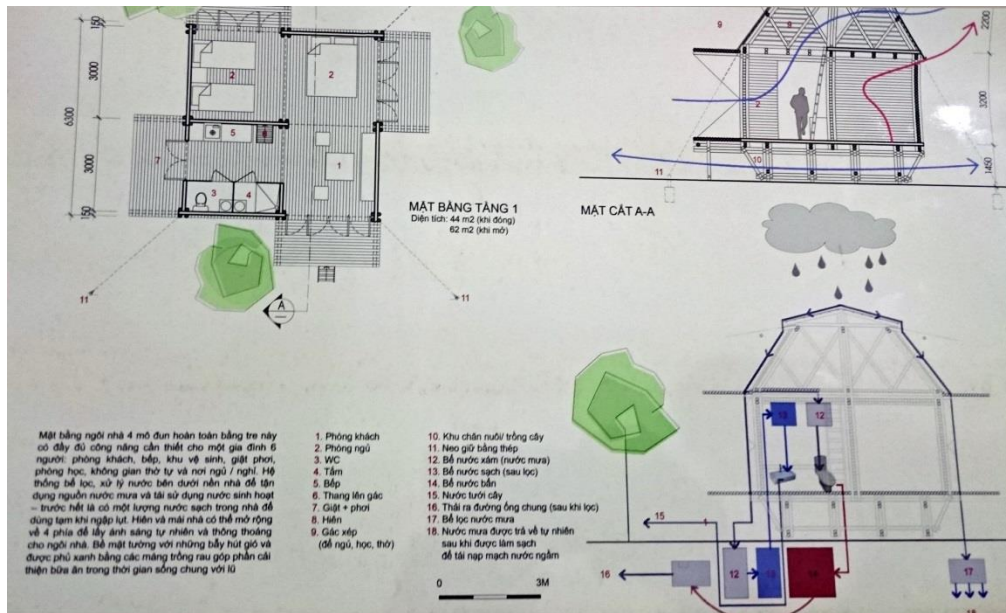


図1. マズローの欲求5段階説

I. Physiological Needs (生理的欲求)

① Toigetation 1: トイレと、植物栽培を組み合わせた建物



② Toigetation 2: 同上

③ Toilet: トイレの設置 (建設中)

II. Safety Needs (安全欲求)

①バンブーハウス: 竹でつくった家で、洪水が来た時に家全体が浮揚し、災害を防ぐことができる。6.6m×6.6mのもので、材料費だけだと2,500-3,000 USDであり、住民に設置方法を指導して、住民が自分で建てることができるようにくふうしている。これまでに1軒設置。



② Agrinature: 家の中に木が生え、植物が栽培されている。



③Re-Nest: 太陽光発電を備え、自然通風にも配慮された家(建設中)



III. Social Needs/Love and Belonging (社会的欲求と愛の欲求)

①BES Pavilion: オープンカフェ風の人が集まれる場所

②BE Free day Space: フリースペース



③S Space: 同上

④Rainbow: 同上、虹の7色をモチーフとした装飾がなされている。

⑤Mao Kece Park: 公園を改造し、遊覧性を高めた。

IV. Esteem (承認欲求)、V. Self-Actualization (自己実現欲求)に対応するものはつくっていない。

上以外に、次のようなものがある。

①Agritecture: 建物の屋上で植物を栽培



②Shape a place similar to the nature: 自然に似せて建築物を形づくる。

(感想)

- ・自らの信念と哲学にもとづいて、貧困層のニーズに合う仕事を選び、ナチュラルで、ユニークな設計によって、住宅やフリースペースや公園などの設計をこなしている。その生き方と仕事ぶりに学ぶものがあった。(田中)
- ・貧困層のニーズを踏まえたうえで、それを解決できる斬新なデザインには目を見張った。自然を取り入れたり、再生可能エネルギーをつかったりしているところは日本でも取り入れられるのではと思った。(ジェンキンソン)
- ・高いポリシーを持った会社の印象を受けた。自分の哲学に基づいたマーケティングを持っており、建築提供者のニーズにあった提案を心掛けている。デザイン的にもかなりセンスの高い設計をしており、ホームページへの実績紹介もレベルの高いアップになっている。建築の納入実績としては、まだ少なく、設計と実際使った時の利便性の検証は確認する事ができなかった。建築に関しては、かなりの提案力を持っているようだったがユーティリティーに関してはあまり知識がなく、従来方法で良しとしているようだった。(志賀)
- ・マズローの「欲求階層論」(人間の欲求は、「生理的欲求」「安全への欲求」「社会的欲求」「自我欲求」「自己実現欲求」の、低次元から高次元までの5つの階層をなしている)に合わせた居住空間を建築家として提供するという H&P architects のポリシーは、独特ではあるが、感心した。特に竹材を活用したローコストでしかもデザイン的にも素晴らしい家は、ベトナムの風土にあったもののように感じた。それ以外にも安全や社会性を満たす学校や共同居住群など、模型や図、写真など構想を見せる化する資料も分かりやすくよかった。このような構想が、GreenID や VIRI と共同でベトナム国内で展開できないもの

かなと思った。(神野)

- マズローの欲求 5 段階説の最下層「生理的欲求」：生きていくための基本的・本能的な欲求（食べたい、飲みたい、寝たいなど）を満たす家ということで、竹の家のコンセプトをうかがった。絶対的な貧困が解決しつつある中で、次のターゲットは、「安全欲求」：危機を回避したい、安全・安心な暮らしがしたい（雨風をしのぐ家・健康など）ということで、今後のターゲットとしてどうやって貧乏な層に安心してらせる家を供給するかが課題と思う。(橋本)

- 1) 日本もベトナムもアトリエ建築系の設計事務所は、主催建築家の哲学的な思想に基づいて設計業務が進められていること。事務所の雰囲気も日本と同じだったことに親近感を覚えました。
2) 低コスト竹製住宅のプロジェクトの実績が 1 物件のみだったことは残念でした。普及しなかった原因を知りたかったです。
3) 日本の建築教育の中には「マズローの要求の 5 段階」は無かったので新たな発見ができました。
4) 依頼者の経済状況によって建築材料を変えていること、安い商品ではなく、安い素材という発想は勉強になりました。
5) 建物の内部と外部の境界にセミオープンな緩衝空間を配置して自然と取り込む手法は日本の建築から学んだと Doan さんが教えてくれました。(堀尾)